

令和四年度

小論文

(60分)

流通科学部 流通科学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、二枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

流通科学部 流通科学科

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

新しい需要であれ、古い需要の変容であれ、需要パターンがコロナショックによって変化するには、三つの基本方向がある。

第一のパターンは、もともと分かりやすいパターンである。テレワークの加速という現象が、テレワーク関連の派生需要を生み出すことが具体的な例であろう。たとえば、テレワークのためのパソコン用のモニター需要、あるいは在宅時間が長くなった家族のためのエアコン更新需要などが現実ですでに起きている。コロナショックからの連鎖反応での需要増である。

一方、第二の需要変容の基本はもう少し間接的で、ウィズコロナの時期に芽生えた新しい需要への供給インフラが、コロナショックのインパクトで整備され始めることで、ポストコロナ時代に潜在需要が顕在化される方向である。

例として分かりやすいのは、医療界のリモート診療であろう。従来はさまざまな障害があつてできなかったリモート診療が、ウィズコロナの時期に国民的必要性から始まるようになった。それが、リモート診療のためのインフラ整備を促す。そしていったんできあがつたインフラは、コロナが収束した後にも使える。しかも、わざわざ病院に出向きたくないが診療は受けたいという、これまでは潜在的にしか存在していなかった需要がインフラが整備されると顕在化してくるのである。

観光の世界では、インバウンドや国内大移動の観光需要がウィズコロナの時代には激減したために、観光業界の生き残り作戦としてマイクロツーリズム（地元での観光）への傾斜が起きている。そこで作られるさまざまな制度や工夫は、ポストコロナの時代の地元観光のためのインフラとして意味を持つ可能性がある。それが地場需要の顕在化の持続性につながる可能性もあるのである。

もともと、観光インバウンド需要は、コロナ収束後には遠からずもとに戻るだろう。そればかりか、日本が観光先として選択される可能性は、コロナショックでかえって高まったと思われる。すでに、中国国内でのアンケートでこれまで人気の旅行先として第1位がタイだったものが、日本がダントツの1位になったという報道がある。理由は、清潔と衛生である。

さて、第三のパターン、人々の価値観の変化を起点とする需要変容としては、コロナショックで人々が「命と生活を大切にすることの重要性に気づき、S D G s (Sustainable Development Goals) やE S G 投資 (Environment, Social, Governance) の動きと相まって新しい需要が生まれてくる例がありうる。たとえば、欧州で言われているグリーンリカバリー（コロナからの復興は、地球環境にやさしい復興を）の動きなどがその典型である。あるいは、自動車をパーソナルに持たたい（他人とシェアするのは、接触を避けるためには望ましくない）という価値観がより大きくなることももう一つの例である。

たしかに、コロナショックは全世界に甚大な健康上の不安をもたらした現象だから、価値観へのインパクトも大きいと想定できるが、それがどの程度の規模で起きるかまだよく分からない。「のど元過ぎれば熱さを忘れる」というのも人間の本性だから、ウィズコロナの時期に人々が感じていることがどの程度永続的か、多少は割り引いて考える必要がありそうだ。

（伊丹 敬之著『日本企業の復活力』より一部変更して転載）

問一 以下の(一)、(二)の設問について、それぞれ文中の語句を用いて記述しなさい。

(一) 「需要パターンがコロナショックによって変化」する、ということについて、本文中には、三つの変化のパターンがあると提示している。その三つについて100字～150字で簡潔に述べなさい。

(二) コロナショックによって観光の世界でも大きな変化が余儀なくされているが、「観光業界の生き残り作戦」として、どのような可能性があると考えられていますか。
100字～150字で簡潔に述べなさい。

問二 コロナショックを経て起きている、「人々の価値観の変化を起点とする需要変容」とあるが、あなた自身が感じる価値観の変化と、需要行動の具体的変化とはどのようなものであったか、300字～400字で説明しなさい。